

講義録レポート

講 座	証券アナリスト	科目①	財務分析
目標年	2013年合格目標	科目②	
コース	1次 直前対策セミナー	回 数	1 回

収録日	2012 年 12 月 10 日		
講師名	谷口 先生	講義録 枚数	1 枚 ※レポート 含まず
		補助資料 枚数	3 枚 (サイズ)

講義構成	講義（ 29 ）分		
使用教材	①		
	②		
	③		
	④		
配布物	有 . ☒ 無		
	①		
	②		
	③		
正誤表	有 . ☒ 無	枚	
備考			

証券アナリスト 講義録			科目	財務分析	コース	1次 直前対策セミナー	回数	/
-------------	--	--	----	------	-----	----------------	----	---

配布物	★ミニテスト：あり []	なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説	講師	谷口 先生
	★実力テスト：あり []	なし	★その他のレジュメ []		
	◇配布物なし				

テキスト ページ	黒 板 内 容
	◦ 学習の範囲 企業活動 ↓ 会計処理 → B/S ※ルール P/L 分析 30 ~ 35% 株式価値評価 5 ~ 10% ← 55 ~ 65% →

(1次) 財務分析

1. 出題分析 (全体)

全問マークシート方式の選択問題で、解答数は60問弱となっています。60%以上の得点を効率よく積み重ねるためには、出題傾向が安定している第4問の財務分析問題で、まとまった得点の確保を目指す必要があると思われます。また、第1問の正誤選択問題は、第2問、第3問の計算問題（会計処理等）の知識から正答を得られるケースも多いため、相互に関連付けた学習が効果的でしょう。

図表：財務分析大問別の配点

	H22 秋	H23 春	H23 秋	H24 春	H24 秋
第1問 正誤選択問題	32	34	34	34	34
第2問 計算問題	14	12	10	12	12
第3問	18	18	20	18	18
第4問 財務分析問題	26	26	26	26	26

計 90 点

2. 大問別出題分析

(1) 第1問 正誤選択問題

正誤選択問題では、特定の分野に偏ることなく幅広い出題が見られます。出題範囲すべての習得は負担が大きいため、まずは頻出論点の習得を優先させてください。

平成 23 年秋 (34 点)	平成 24 年春 (34 点)	平成 24 年秋 (34 点)
①会計監査	①会計情報の役割	①企業会計の仕組み
②会計記録と利益計算	②会計監査	②会計制度
③連結財務諸表	③会計情報の特徴	③勘定記録のルール
④負債会計	④CF計算書	④損益計算書
⑤繰延資産	⑤資本について	⑤資本取引と損益取引
⑥連結修正	⑥連結会計	⑥純資産会計
⑦利益計算	⑦包括利益	⑦のれんの会計処理
⑧収益の認識基準	⑧収益の認識基準	⑧連結会計
⑨営業外費用	⑨収益・費用の測定	⑨包括利益
⑩棚卸資産の評価と減耗	⑩キャッシュフローと損益	⑩収益の計上
⑪先入先出法と後入先出法	⑪固定資産	⑪費用の認識
⑫減損会計	⑫負債総論	⑫棚卸資産の評価方法
⑬時価評価	⑬減損会計	⑬有価証券の評価
⑭外貨換算	⑭有価証券の評価	⑭退職給付会計
⑮ファイナンス・リース	⑮退職給付会計	⑮外貨換算会計
⑯百分率財務諸表	⑯外貨換算会計	⑯リース取引
⑰残余利益	⑰株主に帰属するFCF	⑰税効果会計

(2) 第2問 個別計算問題

繰り返し出題される論点も多く、過去の出題と同様の計算手順で解答できる問題も多いため、特に過去の出題論点の反復練習が有効です。

平成 23 年秋 (10 点)	平成 24 年春 (12 点)	平成 24 年秋 (12 点)
問 1 連結損益計算書	問 1 棚卸資産の原価配分	問 1 資本連結
問 2 減損の判定	問 2 減価償却	問 2 原価計算
問 3 外貨換算会計	問 3 退職給付会計	問 3 工事契約
問 4 株式価値評価	問 4 退職給付会計	問 4 その他有価証券
問 5 P V G O	問 5 税効果会計	問 5 償却原価法
	問 6 P V G O	問 6 在外子会社

(3) 第3問 総合計算問題

第3問の総合計算問題は、第2問に比較し難易度が高い傾向のため、解法の不明な問題等に深入りしない注意が必要です。ただし、設問の全ての難易度が高い訳ではないため、容易に解答可能な論点は積極的に解答する必要があります。

平成 23 年秋 (20 点)	平成 24 年春 (18 点)	平成 24 年秋 (18 点)
I 減損会計	I 有価証券の会計処理	I 減価償却
問 1 固定資産の減損	問 1 売買目的有価証券の評価	問 1 取得原価の推定
問 2 有価証券の減損	問 2 償却原価法	問 2 定額法
問 3 C F 見積法	問 3 評価差額の処理	問 3 定率法
II その他有価証券の会計処理	II 企業結合会計	II 退職給付会計
問 1 期末評価損益	問 1 のれん	問 1 利息費用
問 2 税効果額	問 2 株主資本の増加額	問 2 期待運用収益
問 3 税効果額	問 3 少数株主持分	問 3 未認識債務の費用処理
III 退職給付会計	III リース会計	III 株式価値評価
問 1 割引率	問 1 契約時のリース債務	問 1 予想配当額
問 2 退職給付債務	問 2 リース資産の減価償却	問 2 設備投資額
問 3 退職給付費用	問 3 期末リース債務	問 3 株式の内在価値
問 4 数理計算上の差異		

(4) 第4問 分析総合問題

分析総合問題は、1次試験の全配点の30%弱を占めており、その出来不出来が合否に直結すると考えられます。収益性分析と安全性分析を中心とした出題で、出題される財務指標も安定しているため、正誤選択や計算問題よりも、得点を伸ばしやすいと言えます。ただし、問題文や財務諸表など与えられる資料が非常に多いことから、限られた時間で効率よく解答を導き出すための対策が必要となります。

具体的な対策としては、過去の問題等を使用した、定期的な反復練習が有効となります。繰り返し問題を解く中で、基本テキスト等を活用し、頻出の財務指標を中心に、その計算式とそれぞれの指標が意味する内容の習得を図ってください。適切な財務指標の選択を素早く行うためには、それぞれの財務指標の意味する内容を知っている必要があり、また、財務諸表から必要な数値を素早く取り出すためには、計算式を正確に記憶していることが必要です。

正確さに加え速さも要求されていることを念頭に、準備を進めることが重要です。

平成 23 年秋 (26 点)	平成 24 年春 (26 点)	平成 24 年秋 (26 点)
(連結、時系列、機械装置製造業)	(連結、クロス、販売業)	(連結、クロス、ビール製造販売)
(1) 資本利益率 経営資本営業利益率(2 指標分解)	(1) 資本利益率 ROE(3 指標分解)	(1) 資本利益率 ROE(3 指標分解)
(2) 売上高利益率の分析 百分率損益計算書	配当性向 サステナブル成長率	(2) 売上高利益率の分析 百分率損益計算書
(3) 損益分岐点分析 損益分岐点売上高 損益分岐点比率	(2) 売上高利益率の分析 百分率損益計算書	(2) 損益分岐点分析 変動費率 損益分岐点比率
(4) 資本回転率等の分析 棚卸資産回転期間 有形固定資産回転率 売上債権回転期間	(3) 資本回転率等の分析 売上債権回転率 棚卸資産回転期間 有形固定資産回転率	(3) 資本回転率等の分析 手元流動性比率 売上債権回転期間 棚卸資産回転率
(5) 安全性分析 当座比率 自己資本比率 固定比率 インタレスト・カバレッジ・レシオ	(4) 安全性分析 流動比率 負債比率 固定比率	(4) 安全性分析 流動比率 負債比率 固定長期適合率 インタレスト・カバレッジ・レシオ